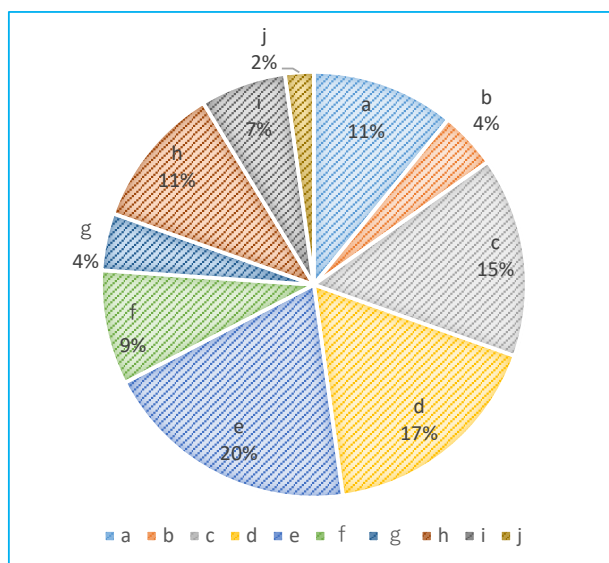


第16回 大学教育問題全学講演会
「学修成果の可視化ツールに関するモニタ実施結果の紹介」
アンケート集計結果 (2022.5.26)

教員参加者 127名

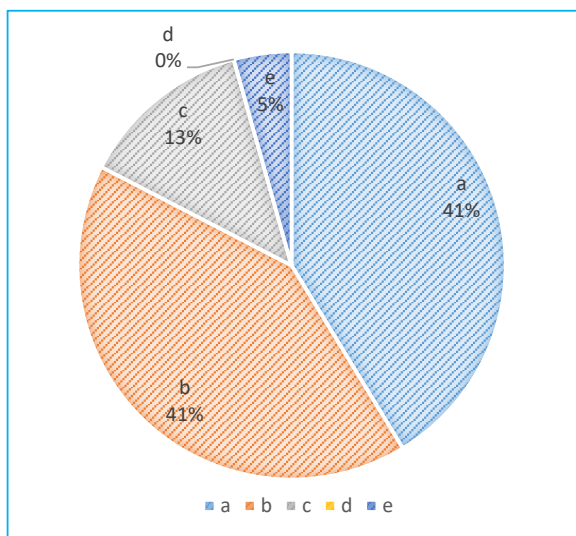
1. 先生の所属を教えてください (必須)



- a.法学部
- b.経済学部
- c.経営学部
- d.現代中国学部
- e.国際コミュニケーション学部
- f.文学部
- g.地域政策学部
- h.短期大学部
- i.事務職員
- j.上記以外

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	計
5	2	7	8	9	4	2	5	3	1	46

2. 報告1.について (国際コミュニケーション学部)



- a.大変良かった
- b.良かった
- c.ふつう
- d.やや良くなかった
- e.良くなかった

a	b	c	d	e	計
19	19	6	0	2	46

●「a.大変良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 愛大の教員の実践例と学生の実態がわかってためになった。
- ◇ 授業における学生全体の反応から、なんとなく感じていたことが、データとして示されたため、今後の授業での学生に対するアプローチを考える参考になったため。
- ◇ 学生の汎用的能力を測る1つの手段として有用であると感じました。
- ◇ 講師の話が分かりやすく、どういう分析をしているのか、よく理解できました。
- ◇ 他学部の状況や学習成果の可視化ツールのそれぞれの特徴がよくわかって大変参考になった。
- ◇ 国際コミュニケーション学部のPROGトライアル受験の結果の詳細を紹介してくださり、その結果を学生の学びや本学の教学改善にどのように活かせるかなどについて、知ることができて、大変勉強になりました。
- ◇ 効果についての詳細な分析があり、導入の意義がよく理解できた。
- ◇ 2021年度事業計画で「新たな可視化指標として、アセスメントテストの導入を検討」することとしており、今後の提案検討において参考になる内容であった。また、提案に先立って教職員に広く理解を促す機会となり有益であった。
- ◇ 自分の学部の学生のことが詳細に知れたので。
- ◇ 本調査において本学のリテラシーやコンピテンシーなどの一端が可視化された。その一方、GAPとの相関がほとんど見られないなどの興味深い分析などが多々あった。
- ◇ データの結果分析だったので、学生の実態を知るのに役立った。
- ◇ わかりやすいので
- ◇ アンケート結果についてとても詳しく分析されていて、参考になりました。
- ◇ 本学の実践なので、応用を考えやすかった。

●「b.良かった」と答えた人のコメント

- ◇ サンプルサイズも大きく、分析も多面から行われていた。そのテストの詳細、質問見本などをもう少し見たい。
- ◇ 報告2にも関連するが、他学部を含む全学的な教学の動向や課題を知ることができた。報告者のやっている内容に必ずしも賛同するものではないが、このような機会は大切にしたい。
- ◇ 学修成果を可視化すること、統計的な手法を用いて、客観的なアプローチがなされていること。
- ◇ 学科別の特性も理解できた。現中、国コミュともに初回実施であり、経年的変化をフォローする必要性が確認できた。内容精査は次回以降と考える。
- ◇ 学生育成の方向性がはっきり出されていることは良いと思います。学生のレベルによって、ビジョンをもっと具体的にした方がいいかもしれない。
- ◇ データ分析に基づく報告でわかりやすかった。
- ◇ 学修成果の可視化を進める上で、参考になった。
- ◇ 学部の取組状況を知ることができ、有益でした。
- ◇ 同一対象を複数年度にわたって追跡することにより、テスト・データ間の明確な関連や蓋然性が見えてくると、もっと面白くなるな、と感じました。ぜひ続編を聞きたいです。
- ◇ 実際の経験者の体験を聴けた。

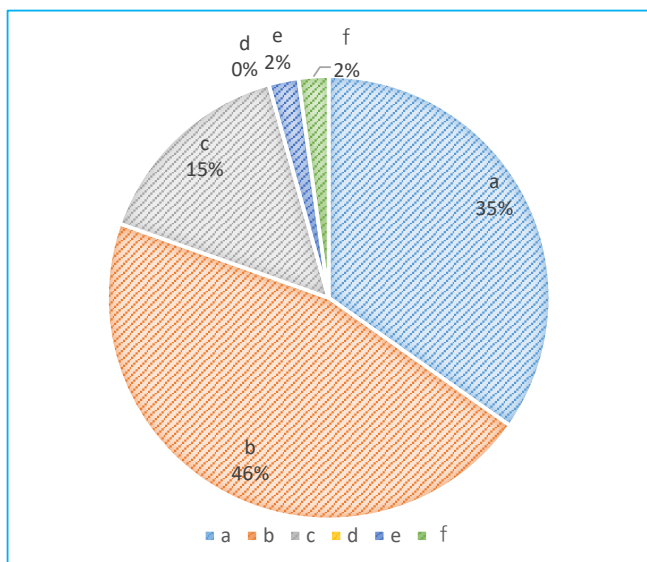
●「c.ふつう」と答えた人のコメント

- ◇ 国際コミュニケーション学部と法学部では教育目標も、在籍している学生の性質も異なるため、法学部にとってどれだけ有効な議論なのか、わからなかったから。
- ◇ 当学科での卒業年次でのアンケート結果を踏まえた考察があるとわかりやすいと思いました。

●「e.良くなかった」と答えた人のコメント

- ◇ 一般論と大差ない
- ◇ やや危険かなと。

3. 報告2.について (現代中国学部)



- a.大変良かった
- b.良かった
- c.ふつう
- d.やや良くなかった
- e.良くなかった
- f.未回答

a	b	c	d	e	f	計
16	21	7	0	1	1	46

●「a.大変良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 愛大の教員の実践例と学生の実態がわかってためになった。
- ◇ 報告1と、ほぼ同様。
- ◇ 学生たちがまず可視化された自分の学習成果を見てそれをいかに今後活かしていくのかを考えられるよう、そのための必要な機会を用意し教員も役割を果たしていくことが大切だと感じました。
- ◇ 国際コミュニケーション学部が実施した可視化ツールとの違いがよくわかって大変参考になった。現代中国学部では今回のツールを使って継続的に実施すべきだと思う。
- ◇ 現代中国学部の学修成果の可視化について、トライアル受験の結果の詳細や今後学生指導などにどのように応用するか、などについて知ることができて、大変よく勉強になりました。
- ◇ 他大学の参考データの紹介もあり、このような俯瞰的な分析の必要性がよく理解できた。
- ◇ 上記回答3と同じく、2021年度事業計画で「新たな可視化指標として、アセスメントテストの導入を検討」することとしており、今後の提案検討において参考になる内容であった。また、提案に先立って教職員に広く理解を促す機会となり有益であった。
- ◇ 2つのテストの結果の差が大変勉強になった。
- ◇ わかりやすいので
- ◇ アンケートの結果を詳しく報告して下さり、とても参考になりました。留学生のアンケートもあれば良いなど
- ◇ 本学の実践なので、応用を考えやすかった。

●「b.良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 現中の取り組みや、分析結果の解釈について説明されていた。
- ◇ 報告1と同様、他学部を含む全学的な教学の動向や課題を知ることができた。報告者のやっている内容に必ずしも賛同するものではないが、このような機会は大切にしたい。
- ◇ 時系列に評価がなされていること。プロセス過程が理解できること。
- ◇ 現中、国コミュともに初回実施であり、経年的変化をフォローする必要性が確認できた。内容精査は次回以降と考える。
- ◇ 国際コミュニケーション学部の学生の現状把握と分析を試みた点。
- ◇ 実例に基づく報告でわかりやすかった。

- ◇ 学修成果の可視化を進める上で、参考になった。
- ◇ やはり単年度だけのテスト実施では、見えるものが限られてしまうのだな、と感じる一方、複数年度の結果を合わせたデータ分析への期待が高まりました。ぜひ続編を聞きたいです。
- ◇ データの結果分析だったので、学生の実態を知るのに役立った。現プロの効果などが数字として示されていた。
- ◇ 実際の運用結果が実例でわかった。

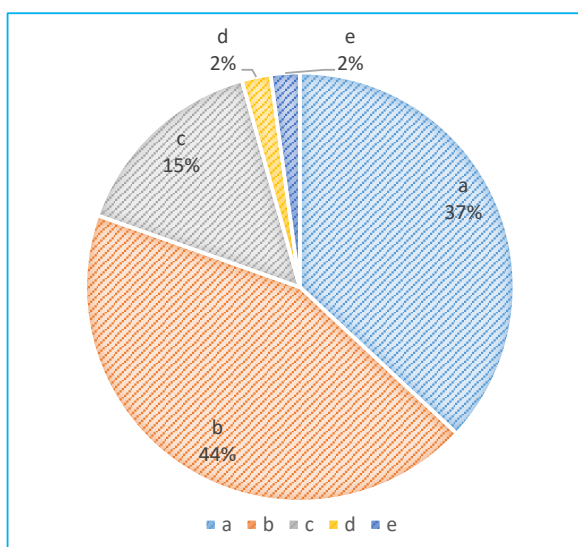
●「c.ふつう」と答えた人のコメント

- ◇ 3.と同じ理由です。
- ◇ 当学科で卒業年次でのアンケート結果を踏まえた考察があるとわかりやすいと思いました。

●「e.良くなかった」と答えた人のコメント

- ◇ 一般論と大差ない

4. 報告3.について (全体を通して)



- a.大変良かった
- b.良かった
- c.ふつう
- d.やや良くなかった
- e.良くなかった

a	b	c	d	e	計
17	20	7	1	1	46

●「a.大変良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 愛大の教員の実践例と学生の実態がわかってためになった。
- ◇ どちらの報告も、ツールの特徴がよくわかるものであったし、比較することでそれぞれの長所、短所がよくわかり、どちらを採用すべきか考えることができた。
- ◇ 各学部の取り組みなど知ることができて良かったです。
- ◇ 学内の先進的な取り組みの紹介は、身近で導入の意義を理解しやすい。講演された2学部長は大変お疲れさまでした。
- ◇ 上記回答3・5と同じく、2021年度事業計画で「新たな可視化指標として、アセスメントテストの導入を検討」することとしており、今後の提案検討において参考になる内容であった。また、提案に先立って教職員に広く理解を促す機会となり有益であった。
- ◇ 学生の成長を知るためのヒントがたくさんある話が聞けたから。
- ◇ 自身の大学を実践事例として、現実の目前にいる学生たちのデータと実情の一端が垣間見られたことが大変良かったと思います。
- ◇ 時宜を得ているので
- ◇ 他大学と比べて、愛知大学の学生の特徴などが良く分かりました。今後、授業や学生の指導の際などに参考にさせていただけるので、とても良いテーマ設定だと思いました。
- ◇ 長期的な成長を測り、可視化することが、学生自身にとって重要であるから。

●「b.良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 学修成果の可視化と言われても困っていたため。
- ◇ 興味・関心があった。
- ◇ 実態が可視化されていること。
- ◇ 現中での学修において要点が再確認できる内容であったため。ただし、現地主義教育と（このような学修成果可視化ツールの評価において重視される）情報処理などの能力育成が、直接的に関連するものではないという点についても、重要な示唆を得た。
- ◇ 如何に学生を育成するかを本気で考えるようになった。
- ◇ 現代中国学部の子生の現状把握と分析を試みた点。留学生を除外しない方がよいのではないか。同じ本学学生でもあり。文学部では、留学生の学ぶ意欲や積極性は他の学生の推進力・機動力となっている一面も見受けられる。
- ◇ 理論や概念ではなく、データや実例に基づく報告であったため。
- ◇ 今後の学習指導の大枠において、念頭に置くべき項目を把握することができた。
- ◇ 学修成果の可視化を進める上で、参考になった。
- ◇ データの結果分析だったので、学生の実態を知るのに役立った。
- ◇ 外部評価テストの導入の困難さがよくわかった。

●「c.ふつう」と答えた人のコメント

- ◇ 内容自体は参考にはなったが、具体的な課題のあぶり出しや全学的な教学についての討議等が不足していたように感じる。
- ◇ 他学部の取り組みを紹介するのはよいですが、何が問題点で、どう解決したのか、といった論点が明確でないと、単なる他学部での取り組みに関する情報提供にとどまってしまう、それを法学部に生かすことができません。今回の話は、それぞれ各学部内で紹介すればすむものであり、全学講演会という形で、他学部の教員の時間を拘束してまでおこなうべき内容だったのか疑問があります。せめて、冒頭で、副学長から、企画の趣旨であったり、具体的な問題提起をしていただきたかったです。それと、質疑応答についても工夫が必要かと思えます。何も準備されていない先生が、思い付きで尋ねるやり方は、時間の無駄になりますし、その他大勢の他学部の教員や職員の関心を薄れさせる逆効果もあると思えます。
- ◇ 全体的・総合的な指標にはなと思うが、科目ごとはもちろん、コースという粒度での検討も難しそうだと感じた。カリキュラムを考えるうえで「○○の項目について、入学時と卒業時で××程度の差をつけたいから、□□のように科目を配置・新設・廃止する」というような形での運用を前提としているのだろうか。学生による自己評価と結果はどれくらい違うのだろうか。
- ◇ 本学での卒業年次でのアンケート結果を踏まえた考察があるとわかりやすいと思いました。

●「e.良くなかった」と答えた人のコメント

- ◇ あえて聞くような話ではない

5. 今後、どのようなテーマを希望されますか？

- ◇ 今後も実践的な話を聞きたい。
- ◇ タスクベースラーニングについて。生徒が自分たちに関連し、興味を持つような課題を解決するところ。課題を解決するためには、学習中のターゲット言語を使って仲間とコミュニケーションする必要があります。その言語に関する文法や語彙の質問に答えるのではなく、本物の言語を使用します。
- ◇ 今回と同じようなテーマで、そのようなテストの詳細。学内で作れないかの検討。
- ◇ 講演会（事例報告）にとどまらず、教学全体のありかたについての自由な議論ができる時間を広くとってもらえるとありがたい。
- ◇ 全学部を対象におこなうのであれば、少なくとも、もう少し、事前準備がおこなわれているか、他学部にも応用可能な論点で講演会を行っていただきたいです。
- ◇ 授業の内容は、到達目標等に沿うよう多少絞る形でトップダウンで調整を入れるべきか、実施担当が何でもできるよう広くとって裁量に任せるべきか、について意見が聞ければ。

- ◇ コロナ収束後の大学教育（コロナの経験を踏まえて）
- ◇ 国際系学部において教育効果を高めた事例解説など
- ◇ 愛知大学の特色とブランドイメージについて
- ◇ 外部講師を招く講演会もいいが、今回のように学内の各学部の取り組みなどについて報告する機会もあっていいのでは。
- ◇ 特にありません。
- ◇ 本学の教育において、実際抱えている問題などについて
- ◇ 大学DX、大学IRに関するテーマを希望します
- ◇ PROGなど複数年度行うことでその変化や傾向を知ることができれば有意義かと思う。
- ◇ 学修成果の可視化は継続してもよいかと思いました。
- ◇ まだ（私たちの間に）あまり広く知られていない最新トピック、トレンドなどがあれば嬉しいです。理論過多な「そもそも」論より、自身を何かしらアップデートでき、現状認識の間隙を埋めるようなテーマであるといいな、と思います。
- ◇ なぜ愛知大学に入学したか、何を求めているか、学んで効果があると思える授業内容とう、学生を対象として集めたデータ分析など。
- ◇ 特になし
- ◇ 多くの企業が望む学生の能力とは何なのか、大学教育で育むことができることは？

6. その他お気づきのことがありましたら、ご記入ください。

- ◇ オンラインで実施する方が参加率が高いのかもしれないと思いました。
- ◇ 特になし
- ◇ テーマに関します情報をもう少し早く知ることができればもっとよく理解できたのではないかと思います。
- ◇ 特にありません。
- ◇ 本アンケート画面ですが、ZOOMの機能として「ミーティング終了後アンケート」があるので、そちらを活用した方が回答率は上がると思います。
- ◇ 特にありません。
- ◇ 当日、閉会時にアンケートの接続先が「①先生方へのお願い」に記載されていることをアナウンスいただき良かったです。「後程、アンケートをお願いします」としか伺っていなかったため、講演会後に別途、アンケート依頼のメールが届くのかと思い込んでおりました。
- ◇ 分析に当たられた先生は大変なご苦労だったと思う。しかし、この湯女データに基づく客観性のある話は情報として共有できてよかったと思う。
- ◇ 特になし
- ◇ システム導入に当たって、具体的に検討していただきたい。